

兒童の救急手當法 (承前)

醫學士 藤 井 秀 旭

火 傷

これは、火、蒸氣、電氣、鹽酸、硝酸等にふれた爲めに起る場合が多いので、其の程度にも、第一度、第二度及び第三度とあります。

第一度(輕瘡)の火傷は其の皮膚赤くなり、これに觸つて見れば熱つく、而して痛い。

第二度のやけとは、水ぶくれがして其の内容は薄黄色に色づいて來ます。

第三度は皮膚の色が黒くなつて、感覺が全くなくなり、その廻りが酷く痛みます。

やけどの手當

第一度の手當は白墨のような粉を水に解いてつけるか、或は「石決明」を水に解いてつけます。其

の他有合せの米の粉、澱粉、滑石、亞鉛華を用ゐる又は椿の油や、オリブ油、ワセリン、ラノリン又は卵の白味をつけて置くのであります。

第二度の手當は水泡は破れない様に注意し、硼酸軟膏を塗つて置きます。又火傷部を水に浸して冷やしますが、顔や、頭の様な所で水中に入れてくい所では硼酸水か、鉛糖水若しくは醋酸礬土水で濕布をして置くのであります。

第三度のやけとは醫師の手にて處置すべきものであります。救急手當として油類や、軟膏類を塗つて置きます。

化學の實驗中に藥品で手を焼くといふようなこととはよくある事柄であります。この場合それが硫

酸や、硝酸や鹽酸の様な酸の爲めであつたなら、水で洗つた後ち、手近くある洗濯シャボンか曹達白堊、灰等を直ぐに塗つて置くのが一番簡便の方法であります。若し苛性カリや苛性ナトロンのような鹼汁であつたなら醋で洗ひ、果實の汁を塗ります。やけども酷くなると假死に陥ることもありまするから、出来るだけの注意はせなければなりません。

錯喉により窒息

これは物を呑み損つて氣管の方へやつた場合にも起るもので、例へば學校で御辨當を食べて居る時に、不意に後ろから友達が来て、背を叩くとか或は物を食べて居る中に不意に「坊や」など、云つて呼んだ爲めに驚いて呑み違をするのである。症状 顔色が青赤色となり、眼を頭の方へ向け呼吸はガラ／＼と、まるで含嗽をする時の様な音がして次に卒倒する。

手當

此の場合には直ぐ術者の左の指で其の子供の鼻をつまみ、口をあげたなら直ぐ左の拇指で小兒の頬べたを上齒と下齒との間に押し込んで、次に右の人さし指を鈎なりにして、舌を押しつけながら喉頭の中へ入れて、其の物を吐き出さすようにするのであります。この場合に注意すべきことは、物が全く吐き出されたか又は食道に落ちたといふことを確めるまでは、手をゆるめてはならないのであります。これで治らなければ醫者を呼ぶより外はないので、醫者を呼ぶ場合には、物を呑み違へたのであるといふことを告げて、それに要する器械を持參して貰ふやうにせなければ、醫者が一端来て、再び其の器械を取りに行くやうな事では手當が後れますから、これを注意しなければなりません。

痙攣

總て人間の神経といふものは、これを(一)運動神経、(二)知覚神経の二に分けることが出来ます云ふまでもなく、手であるとか足であるとか、其他筋肉の運動は即ち第一の場合で、擲では痛みを感ずるとか、傷をすれば痛ひとかいふ其の痛みが第二の知覚神経の方に屬するものであります。此の第一の運動神経が、吾々の自由意志によつて動く場合、例へば手を動かそうとか、足を動かそうとかいふように、自分の意志に基いて動くのが隨意運動であります。ところが、そうではなく動かそうと云ふ意志がないのに、獨り手で筋肉が動き出すやうなことがことがある。これは不隨意運動であります。心臓、膀胱、腸の筋肉がこれに屬するのであります。此の外もう一つ違つた運動があります。それは運動神経が刺戟される爲めに起る筋肉攣縮で、俗に引きつけと云ふ運動がそれでありませう。

痙攣には(一)強直性痙攣と、(二)間代性痙攣との二種があります。第一は腸膀胱痙攣の時や破傷風の時に見るのがそれで、又ヒステリーもその種類に屬する場合があります。第二は子供の引きつけ、癲癇等がそれで、手足をビク／＼動かすやうな場合であります。

子供の引きつけを急痙と申しますが、妊婦に起る痙攣をも急痙と稱へて居りますから、小兒の痙攣を子痙といふ方がよからうかと思ひます。

此の子痙には(一)器質性の子痙と、(二)官能性子痙との二種があります。

其の原因はいろ／＼ありますけれども、先づ次の五つに區別することが出来やうと思ひます。

一、毒性刺戟

傳染病の毒の爲めに脳が刺戟されて起るもの

二、高熱

何病によらず、熱が高い時に痙攣が起るもの

三、精神感動

非常に喜んだとか悲んだといふ時に情緒が過度に興奮する爲めに起るもの

四、反射性

痛いといふことが原因になつて痙攣を引き起す場合

五、脳の病

急性脳膜炎の如きは其の代表的病症である

六、局所痙攣より起るもの

一の痙攣より他の痙攣を引き起すもので、百日咳、後に説明する聲門痙攣の如きものから全身の引きつけを誘引する場合であります。

病 症

始め小兒は何となく落附かぬ様になり。物に驚き安くなり、或は放心した様になり、顔色は蒼白になり、容貌が御面をかぶつた様に表情がなくなる。これを引つけの前驅として疾風電雷の如く痙

攣が襲つて来る、即ち小兒は眉を擧め口を歪がめ眼球を動かし、眼瞼を開閉させる、舌は口内で引きつけ、涎がだら／＼流れ出る、口角は泡沫で被はれ、頭は後ろの方へ引つ張られる、三の腕は伸展し、臂より上の方は内側に向ひ、下肢は脛や膝の所で屈曲けてびく／＼引きつける。その有様がまるででんき宛然電氣をかけられて動く様であります。又内部の横膈膜や喉頭の筋肉も痙攣の仲間入りをする爲め息が不規則になり苦し相な叫聲をします、始め蒼白かつた顔色が紫がかつた色になり汗を出します、此の様にして引きつけが弛み始め四五分の後には全身が全くもとの相になつて引つけが終ります。この痙攣が始まつてから終るまでを一發作と云つて居ります。其の發作は一二分のこともあり。又五分位繼續するものもあるが、それは一番長い方で、發作が終ると、再び氣が確になつて來るのであります。

手當

總て怎ういふ場合でも、手當は出来るだけ早くしなければなりません、殊に痙攣の場合には、引きつけを起したらば、直ぐに應急の手當を施すことが大切であります。

此の場合には、先づ患者の身體を正しくして、體に傷がついて居ないかといふことを注意し、室内なれば、窓を開いて空氣の流通をよくせなければなりません。けれどもきら／＼する光線が室内に入つてはよくありませんから、それを遮つて置くとして成るべく靜にして、若し出来るならばグリセリン、オリーブ油を灌腸をする。さうすると稍々恢復して來て、便通がつきます。その大便を試験して、初めて其の原因が何にあるかを知ることが出来るので、若し腸が悪いとすれば、赤痢や疫痢ではないかと云ふことも明になります。

子供が引きつけを起した場合には、先づ子供の

額に手を當たゝ見て、熱のありなしを確かめ、若し熱がなかつたならば、其の時に限つて微温湯へ入れて、頭へ水をかけてやるのも一の方法であります。そうすると十分程も経つと、大體は恢復して來ますから、今度は湯から上げて、フランネルか麻のようなもので全身を摩擦するのであります。かうして尙、治らなければ、それは性の悪い痙攣で、後に害を遺すものですから、餘程注意をして直ぐに醫者を呼ばなければなりません。

若し子供に熱のある場合ですと、湯に入れては害がありますから、冷水で頭を濕布するので、これ以上の手當は素人には出来ないであります。

聲門痙攣

これは咽喉の聲の出る處から起きる痙攣でありまして、其の爲めに全身に及ぼす事もあれば聲を出す處だけに止る事もあります。然し又、この爲めに呼吸が止つて假死に陥ることすらもある位で

すから十分の注意が大切です。

總て痙攣を起す子供は、そういふ體質を持つて居るものだと云ふ人がありまして、これを痙攣素質と云つて居ります、其中には子痲もあれば聲門痙攣もあり、癲癇もあり又、呼吸性無呼吸性などいふいろいろの病氣があるけれども、さういふ引つけを起す子供は何れも神經質の子供であつて、一寸した事にでも、直ぐに引きつける。これはお乳を呑んで居る子供にもよくある事で、これに電氣をかけて見ると一層興奮を増して來ます。

聲門痙攣を起した場合には、呼吸が止つて、唇の色が藍を帯びた不氣味な色に變り、目はぼんやり一方を凝視して、大ていは大小便を洩らします。これが重病であるとして十五秒位で、もう死ぬ事もありますから、かういふ素質の子供は十分注意しなければなりません。

其手當

此の場合には、努めて呼吸が出来るようにしてやることは勿論であります。其の爲めには、顔面や胸に水を注ぎかけて皮膚を刺戟してやる。かういふ手當をして、尚息をふき返さなければ今度は指を口の中へ入れて、恰度物を呑み違へた時にするやうな工合に、聲門へ指尖を入れるのであります。そうすると絞振運動が起きて苦しんで居た聲門が漸くに開く、これ以上、手當は素人には出來ないのですから、それで治らなければ醫者へ行かなければなりません。

癲癇

癲癇には、前驅症と云つて、痙攣を起す前に、或る前徴を呈する場合と、そうでなく突然に來る場合との二種があります、前驅症のある者は、次に來る引きつけに對して要心をする事が出來るけれども、それのない者は、突然何處へでも倒れるから餘程危険であります。

癲癇は初めは強直性の引きつけを起し、次に間代性に變つて来る。そして顔が赤く、稍々赤みを帯びて来る。呼吸が微かになり、桃色かゝつた、口角泡が出て来る。此の發作が起きると、患者は前後不覺になつて來ます。總て癲癇の手當は、今の處身體に傷がつかぬように注意するといふ外、殆んど手當がないのであります。

癲癇の子供の教育に就いては西洋では餘程やましい問題になつて居ります。西洋では癲癇學校といふ特殊の學校が出來て居ります。けれども日本にはありませんから、成るべく普通の兒童と一緒にしない方がよいのであります。雷に教場の妨げになるばかりではなく、傳染の懼れすらもあるからであります。

ヒステリー

これは主として婦人に起る病症であります。然し男には絶對にないといふものではないので、唯、

女ほど男には多くないと云ふに過ぎません。又成年ばかりでなく、小兒にも見る病氣であります。

ヒステリーは運動神經の痙攣と知覺神經の興奮とが一緒に來るもので、感情が激して、總ての神經が過敏になり、普通の人には何んでもない事が其の人には痛くて堪えられぬと云ふようになり。總ての事に取り越し苦勞をするようになる。そして一寸とした喜びであるとか、驚きであるとか、悲みであるとかいふ精神感動の爲め、直ぐに痙攣を起してくる。

症狀は人によつて表はれ方を異にして居て、一部分の痙攣を起す事もあり、全身に及ぶこともあつて、殆んど癲癇と區別がつかぬこともあります。たゞ癲癇は何等の誘引もなく突然に起つて來るけれども、ヒステリーは前に云つたような精神感動が誘引となつて起きる場合が多いのであります。又、ヒステリーは初めは氣が附いて居て半隨

意的の運動をします。又、癩癩は齒を喰しぼる爲めに時々舌を切るけれども、ヒステリーにはこれがなく又癩癩のように大小便を洩らすやうなこともありません。ヒステリーは又、痙攣も引き起せば痙攣も引き起し、一時間のものもあれば長く續くのもあります。

其の手當

ヒステリーの發作を靜める手當としては、アンモニヤ水、オードコロン、醋の様な刺戟劑を嗅がせ、痙攣を起した場合にはブランドー、オボデルドック等を塗つて神經を刺戟せしむるのであります。そして貧血性の人なれば、牛乳、肉類等の動物性な滋養物を十分に與へ、多血性の人なれば植物性の滋養物を與へる。然し香料やコシヨウのような興奮劑は與へてはなりません。一般にヒステリーの患者には暗示を與へることが大切で、醫者にかゝりまして、其の醫者を深く信じさせるよう

にせなければなりません。

ヒステリーから痙攣を起して、其の儘に死ぬといふようなことは先づないので、又、其の爲めに他の病氣を引き起すこともありませぬ。

其の他、これに似た病氣で、破傷風、無踏病等がありますけれども、破傷風は手足に傷でもつけなければ起りませぬが、これは強直性痙攣であります。無踏病は日本には殆んどないのでありますからこゝには省略いたします。(未完)

文學士寺田精一氏著「危期に

富める青年及兒童期」

序文中に著者自ら言つて居らるゝ通り、此の書は著者の學術的研究の勞作ではない。其の專攻せらるゝ犯罪心理の考察に伴ひて、思ひ浮べらるゝ兒童期、青年期の教育問題、殊に矯辯論の問題の解決を通じて説かれたものである。一口にいへば子供はどうして悪くなるかといふことを心理的に考察して、教育の實際に益のあるよう書き述べられたものである。假令は子供の嫉妬心とか、殘酷心とか、惡戯とか、所謂「こまりものだ」といふ問題は、大抵包括されて居る。家庭、幼稚園、學校の教育に、いづれにも參考になる分り易い書である。著者は本誌にも數回有益な稿を寄せられたことがあつて、讀者の知らるゝ如く一般の教育といふことその他に、惡性的の方から子供の生活を注意せらるゝ處に、此の書の特徴がある。(東京神田裏神保町嚴松堂書店發行定價金一圓)